

ラオスのこども通信

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603

43号
2008年9月発行



- 特集 絵本の旅.....2
なぜ、学校に本を届けるのか.....3
写真で見る図書配布.....4
小学校での一冊の本との出会いから.....6
国内の活動 / 事務局より.....7
寄付者・協力者のみなさん8

受賞
しました!

IBBY朝日国際児童図書普及賞

絵本の旅

みなさんからのご支援で作られた絵本が子どもたちの手元に届く。その足どりを追いかけてみました。はじめて絵本を開く子どもたちに笑顔が広がります。



学校図書室の開設で、会のスタッフといっしょに「大きなかぶ」のお話を楽しむ子どもたち（手前の男の子がかぶの役）

特定非営利活動法人ラオスのこどもは、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていくために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの出版」「図書室」「集い楽しみ学べる場」などの支援を行っています。

絵本の旅 学校へ、地域へ、本を届けています。

教科書や教材がそろわないラオスで、当会は小学校を中心にラオス各地に本を届けています。



日本の絵本にラオス語を貼った絵本が、ラオス事務所に届く。

●日本からラオスへ

「ラオスのこども」は、みなさんからのご支援で、ラオスでラオス語の本を出版しています。また、みなさんのボランティア活動で日本の絵本にラオス語訳を貼って、ラオスに送っていただいています。時には、東京スタッフのラオス出張などの際に、翻訳を貼り付けた絵本をラオスに運んでいます。出版した本もみなさんから送っていただいた絵本も、当会ラオス事務所からラオス各地の学校に届けられます。



ラオス事務所で、届ける学校ごとに本を梱包。

●ラオス全国の小学校などに向けて

本を届ける先は、小学校が中心で、中学校や高校、さらに地域の図書館にも届けています。どこに届けるかは、ラオスの図書館行政を担っているラオス国立図書館と連携して決めています。

今、ラオスには8,000校を超える小学校があります。当会は、これまでに全国の約2,700校に本を届け、また、学校図書室を開設してきました。学校以外では、地域の児童館である子ども文化センター(CCC)などです。



市場の文房具屋で売られる教科書。地方で本屋は見かけない。

●1校に130冊から

届ける冊数は、その学校に空き教室があつて、学校図書室を開設する場合は約450冊で、空き教室がなく、職員室などに図書箱や図書袋を設置したり、本だけを届ける場合は約130冊です。

ラオスでは、首都ヴィエンチャンなどを除いては、まちで本を売っておらず(教科書ならば市場の文房具屋で売っています)、本を手に入れること自体が困難です。まだ絵本を手にしたことのない子どもたちの学校に届けることとともに、すでに本を届けている学校でも年月が経てば、新しい本を補充して届けることも、図書活動の活性化をフォローする意味でも重要です。

なぜ、学校に本を届けるのか

●教科書が不十分な学校が9割

ラオスでは小学校に入学しても、読み書きが身につかず、進級できない子どもが多く、途中で学校をやめてしまう子どもたちが半数近くにも及んでいます。また、高学年（ラオスの小学校は5年制）になっても、たどたどしい読み方しかできない子どもが少なくないという現実があります。

その大きな理由の一つが、教科書が行き渡らないなどの不十分な教育環境によるもので、実際、教科書が1人1冊そろわない学校が約9割にものぼります。

●ドロップアウトを減らす手がかりに

学校教育を行うには、校舎と先生と教材の3つが欠かせません。ラオスでは、近年、校舎の建設は急速に進められています。しかし、先生の能力が不

十分であったり、子どもが教科書もなく授業を受けていて、教育の質の面では、大きな課題があります。

子どもが語彙を増やし、文字を覚え、さらに文章として理解することができるようになるには、手元に本をもってじっくりと読むことが欠かせません。そうしたことができる環境を整えるべく取り組んでいるのが、当会の活動です。

学校の図書活動が充実することで、進級試験の不合格者が減ったという報告を各地の校長先生から受けています。

さらに、学校に行くことができなかつたり、学校を途中でやめてしまった子どもたちや、地域の大人も本に親しめるよう、地域での取り組みも徐々に進められています。



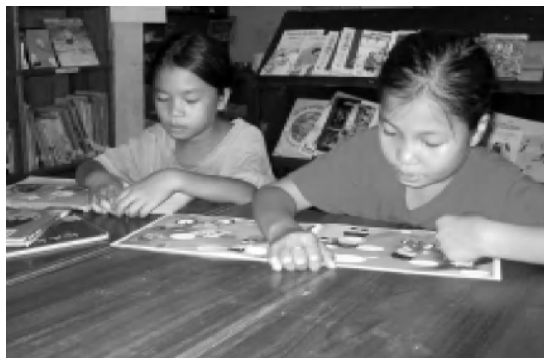
一家の重要な働き手として仕事をする子どもたち。



子連れで授業をする先生。



家で妹の世話をする男の子。



声に出しながら文字を追って本を読む女の子たち。
9月から4年生になる。

写真で見る図書配布

学校へ、本を届けに



山の多い地形は教育の普及を妨げる一因。車が入れず、歩いて数日かかる学校もある



老朽化した校舎に並んで、新校舎が建つ。教育を良くするには、校舎だけでなく、教材も欠かせない。本は文字を習得する上でとても大切。



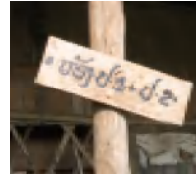
左の学校の古い校舎の教室の様子。



海のないラオスは豊かな川の恵みの国でもある



子どもたちが、本の配付を出迎えてくれた。



1～2年生の分校。ラオスでは1年生は進級試験不合格が3割に達する。文字に親しむ絵本が待たれる。

学校図書室の開設



サソリのお酒はいかが。タイ、ミャンマー国境近く、ゴールデンライアングルにて。



空き教室がある学校は、そこを図書室として利用する



本棚は、先生や児童の親が作る例もよく見られる。子どもたちも先生を手伝って、本を並べていく。



紙芝居を演ずる当会スタッフ。絵本、紙芝居の魅力を子どもたちに、そして先生たちに伝えるために欠かすことができない。



図書室の入口に「ハックアーン」（愛読の意味）と書かれ、支援者名が入った看板を取り付ける。

先生へのセミナーは必須



先生にとっても、絵本との出会いは初めて。県や郡の教育局に集まり、図書を受け取るとともに、集合研修を受ける。



本に親しむための活動は、「読む」ことだけでなく、「楽しさ」も重視。歌なども取り入れられている。



研修は、県や郡の教育指導官に対しても不可欠。そうしてこそ、子どもたちの本に親しむ機会が整えられていく。



各校に配付できるのは限られた数の本なので、本の修繕も研修の必修項目。



図書を配布する車は、東へ東へと進み、ベトナム国境近くの町に至る。



ベトナム戦争中の大量爆撃で、UXO（不発弾）が今も人々を苦しめている。

配布後のフォローが大事



配付して1～2年後、本の利用状況（授業での利用、閲覧、貸し出し）を調査し、アドバイスをする。



実際にどの程度、本が読まれているかは、見ればすぐにわかる。



子どもの音読を聞くことで、本の配付の成果がわかる。先生が本好きとなるのが大きなポイント。



新しい本を補充することで、蔵書を増やし、先生の意欲に刺激を与える。



ボンネットを開けると泥だらけ。地方の悪路は会の愛車を痛めつける。



小学校での一冊の本との出会いから ヴィエンチャン県トゥラコム郡プーカオクワイ小学校を訪ねて

地域をあげて図書活動に力を注いでいる、ヴィエンチャン県下の小学校を訪問しました。

2008年7月29日、ヴィエンチャンの中心部から車で1時間半ほどのところにあるプーカオクワイ小学校を訪ねました。この訪問は、JICA 草の根技術協力事業の終了時評価会議の一環として行われ、4つの県の教育指導官と当会スタッフが参加しました。



手前左から、県教育指導官、村長、郡教育指導官、校長、当会ラオス事務所
所長、他県教育指導官、シーチャン先生。

同小学校では、1学年を隣接地に移して教室を1つ空け、そこに図書室を開いて、子どもも村の大人も利用するという熱の入れようです。

校長先生は、「うちの学校の先生はみんな女性。若手が結婚もしないで図書活動がんばっているのよ」と笑いながら話します。

プーカオクワイ村は、政府の政策で高地から2003年に移住してきたモン族の人々の村です。子どもたちに国語であるラオ語をしっかりと修得させたいという大人たちの強い思いが図書室に込められているのでしょう。

当会ラオス事務所所長のダラーは、「幼いうちはまず母語であるモン語をきちんと身につけることが大切です。そうしてこそ、学校で習うラオ語も身につくのです」とアドバイスしました。

* * *

学校での読書活動を広げる上で、「本好きの先生」を増やすことがカギとなるというのが、評価会議で持ち上がったテーマの一つでした。

同小学校の図書担当の一人、シーチャン先生

は、「図書の仕事をして負担に感じたことはありません。本が好きですから」と話します。

本との出会いを聞くと、「小学生のとき、『いい香りの髪の少女』というお話を読みました。勇気が出てきて、本が好きになりました」とのこと。

それを聞いたダラーは、満面の笑みで、「それは私が書いた作品です」。

当会の図書の普及活動は1990年からラオス語の本を出版し、学校に届けてきています。小学校で本を手にした子どもたちが、こうして本好きになって、先生となり、教え子たちに本の楽しさを伝えるまでになったのです。これもまた、絵本の旅なのでしょう。



「本が私を勇気づけてくれました」と、
シーチャン先生。



村の入口付近で、悪路のため車が入らず、急遽、トラクターに乗って
小学校へ。



トラクターを待つ間、村の子どもたちに出迎えられる。

国内の活動・事務局より

2008年3月～7月

<ラオス事務所の動き>

- 3月
3/2-3 写真ワークショップ実施
3/6-7 学校図書室開設<ヴィエンチャン都>
3/18 学校間のスタディーツアー、図書配布出張活動
3/25、26 HA173,174 開設<シェンクワン県>
4月
4/11 IBBY 朝日児童図書普及賞受賞発表記者会見
4/22-24 終了時評価における学校訪問調査実施<チャムパサック県>
4/25-26 HA175 開設<セコン県>
4/28-30 終了時評価における学校訪問調査<セコン県>
5月
5/7-9 終了時評価における学校訪問調査<ボーケオ県>
5/12-14 終了時評価における学校訪問調査<ヴィエンチャン県>
6月
6/3 Japan NGO Meeting(JANM)出席 (猿田)
6/6-7 第4回子どもブックフェスティバル実施
7月
7/28 MOU 調印式
7/28-30 終了時評価会議実施

【お知らせ】

この度、東京事務局スタッフの関千春が、一身上の都合により、6月に退職しました。
「また、どこかでお会いできるのを楽しみにしています。
みなさま、本当にありがとうございました。」

<東京事務所の動き>

- 3月
3/1 ピーマイ準備会議
3/3 田園調布雙葉中・総合学習訪問
3/4-12 ラオス出張(関)
3/7 キッコーマン(東京)でラオス語絵本づくり
3/9 理事会、運営会議
3/14 キッコーマン(野田)でラオス語絵本づく
3/18 JICA 報告・専門家派遣 (押原譲氏)
3/18 キッコーマン(仙台)でラオス語絵本づくり
3/29 ピーマイ準備会議
4月
4/13 理事会、運営会議
4/17 JICA NGO 人材育成研修報告会
4/19 サバイディー・ピーマイ・パーティー
4/25-5/7 ラオス出張(赤井)
5月
5/11 理事会、運営会議
5/13 仙台市立六郷中・総合学習訪問受入
5/18 会議
6月
6/3-29 シルク博物館で展示会
6/7 理事会
6/20 関退任
7月
7/5 沖電気工業でラオス語絵本づくり
7/13 理事会、運営会議
7- ラオス出張(赤井7/25-8/5)・(野口7/27-8/4)・(森7/27-8/6)

サバイディー・ ピーマイ・パーティー

2008/4/19(土)
主催 ラオスのこども

大田区立池上会館(東京都大田区池上)で、「サバイディー・ピーマイ・パーティー08 ～一緒に祝おうラオスのお正月～」が開催されました。毎年恒例のラオス正月を祝う大会主催のイベントには、一般客やボランティア、ラオス人留学生など総勢171人が参加。新年を祝うパーシー儀式、IBBY 朝日国際児童図書普及賞受賞の報告、写真家の押原譲氏のスライド報告ショー、ラオス人留学生によるケーン演奏や踊りなど、多彩なプログラムが盛りだくさん。大会自慢のラオス料理を堪能しながら、現地の活動報告やラオス物商品の販売を楽しむお客様の姿が見られました。また、今年はテレビ番組の取材が入ったり、お楽しみ抽選会では航空チケット(ラオス国営航空ご提供)が当たるなど、正月らしい賑やかな雰囲気となりました。



ラオス女性が伝える 手織りの世界

2008/6/3(月)～29(日)
主催：ホアイホン職業訓練センター
後援：ラオスのこども、ラオス大使館他

シルク博物館(神奈川県横浜市)で、ラオスの織物・民族衣装の展示会「ラオス女性が伝える手織りの世界」を開催。民族や地域特有の伝統織物、刺繍、貴重なアンティーク布など、合計約300点がテーマ別に展示され、ラオスの世界に引き込まれてしまうと大好評でした。

会場内のイベントホールでは、ラオスのホアイホン職業訓練センターの織り子による織物の実演や衣服・手工芸品の販売のほか、大会オリジナル筆箋やラオス語絵本も販売。また、新しくなった大会活動紹介パネル(撮影:押原譲氏)を展示しました。